

(第2号様式)

鏡特第 1833 号  
令和8年 3月 2日

沖縄県教育委員会教育長 殿

沖縄県立鏡が丘特別支援学校  
校長 津波佳和  
(公印省略)

### 令和7年度県立学校学校評議員の運営状況について(報告)

令和7年12月5日付け教県第1750号により依頼のありましたみだしについて、下記のとおり報告します。

#### 記

#### 1 日時、場所、出席状況等

第1回	日時	令和7年7月2日 10:00~11:30	場所	会議室	出席 状況	学校評議員5名、管理者4名、各部主 事、 寮務主任、栄養教諭
第2回	日時	令和7年11月25日 10:00~11:30	場所	会議室	出席 状況	学校評議員4名、管理者4名、各部主 事、 寮務主任、栄養教諭
第3回	日時	令和8年2月3日 10:00~11:30	場所	会議室	出席 状況	学校評議員2名、管理者4名、各部主 事、 寮務主任、栄養教諭

#### 2 学校評議員に求めた事項

・各学部の取り組みについて(各教科の様子、就業体験、交流及び共同学習、地域との連携、校外学習、寄宿舎)  
・本校の給食について(提供している食形態やソフト食ができるまでの様子)  
・学校評価について  
・支援部の取り組みについて  
・進路指導部の取り組みについて(中高の就業生活体験、進路講話、進路保護者説明会)

#### 3 学校評議員の意見

・学校組織を通じた地域連携の推進。地域との関わりは保護者個人に委ねるのではなく、学校対学校(例:隣接する中学校との連携)の枠組みで組織的に進めるべきである。  
・教育の基盤としての「安心」と「貢献」の再定義。教育活動の土台には「安心」が必要であり、教師や保護者が子供を不安にさせない関わりを徹底することで、学習や他者との交流が可能になる。社会参加という大きな目標の前に、身近な担任や家族を喜ばせること自体を「貢献」と定義し、日々の生活の中でその実感を育てることが重要である。  
・卒業後の生活を見据えたコミュニケーション能力と余暇の育成  
・教員が施設を見学するだけでなく、就労継続支援B型事業所などに学校へ来てもらい、生徒の活動を直接見てもらう(声り込む)ことで、就労のミスマッチを解消する

#### 4 学校運営に反映した事項

・ポッチャ交流やおもてなしカフェを開催し、地域の自治会や社会福祉協議会と交流を行うことができた。

#### 5 課題その他

・地域資源を活用した授業改善・体験的活動。